

伶楽舎雅楽コンサートno.39

REIGAKUSHA Gagaku Concert no.39

Music from "Makuranososhi"

枕草子を聴く

横笛 芝祐靖復曲

獅子乱声、狛犬乱声

笙 平調調子

箏 黄鐘調調子

箏独奏 想夫恋(古譜より)

管絃 平調音取、相府蓮

東遊より 狛調子、求子歌

舞楽 抜頭(左方)

舞楽 納曽利 破、急

2022 5月24日(火)

18:30開演(17:45開場)

なかのZERO小ホール

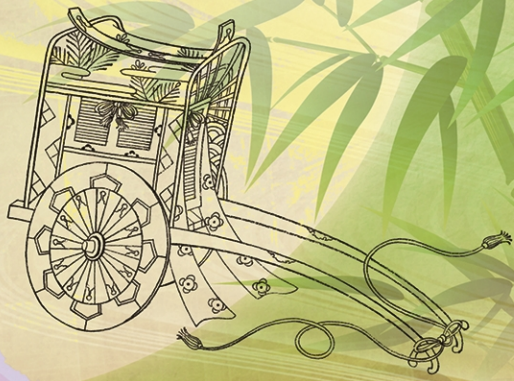
JR又は東京メトロ東西線「中野」駅南口から徒歩8分

前売3,000円

当日3,500円(全席自由席)

助成: 芸術文化振興基金

企画・主催 伶楽舎



平安時代の随筆文学の代表でもある『枕草子』は、清少納言が自由な感性で様々な事柄を綴っており、千年以上たっても、書かれていることには、思わず、そうそう!と頷いてしまうことが沢山あります。雅楽に関する記述も同様で、今日まで伝わるそれらの楽器や舞の描写はとても穿ったもので、中には苦笑してしまうような表現もあり、雅楽が、千年前にも同じようにとらえられていたことに驚くばかりです。今回の演奏会では『枕草子』の雅楽に関するシーンをいくつか選んで、実際に演奏して、ご紹介いたします。

笛は、横笛、いみじうをかし。

笙の笛は、月の明きに、車などにてきき得たる、いとをかし。

箏は、いとかしがましく、秋の虫をいば、轡虫(くつむし)などの心ちして、うたて、け近くかまほしからず。

箏の琴、いとめでたし。調べは、相府蓮。

舞は、駿河舞。求子いとをかし。

抜頭は、髪ふり上げた目見(まみ)などは、うとましかれど、楽もなほいとおもしろし。

落蹲は、二人して、膝踏みて舞ひたる。

管楽器は横笛がとても良い? 箏は本当にうるさい? そんなことを、ぜひこの演奏会で、実際に確かめてみてください。また、箏の「相府蓮(想夫恋とも)」のどこが素晴らしいのか、古譜を参照して独奏での復元演奏も試みます。東遊は今回は楽だけの再現ですが、舞楽「抜頭」は普段見る機会の少ない左舞をご覧ください。清少納言が感じた雅楽の世界をお楽しみください。



前回の公演より(伶楽舎雅楽コンサートno.38王昭君をめぐる 2021.12.17)

チケット発売開始: 3月24日(木)

- 伶楽舎(枚数、氏名、電話・ファクス番号を明記ください。後ほど確認のご連絡をいたします)
FAX 03-5269-2011 (伶楽舎) *ファクスのみの取り扱い(5/22、17:00まで)
Eメール ticket@reigakusha.com (5/22、17:00まで)
- 東京コンサート
・オンラインチケットサービス
http://confetti-web.com/TOKYO-CONCERTS
・電話予約(カンフェティチケットセンター)
0120-240-540 (受付時間 平日10:00~18:00オペレーター対応)
- e+(イープラス) http://eee.eplus.co.jp

ご来場に当たっては、新型コロナウイルス感染予防対策へのご理解とご協力をお願いいたします。チケットは半数販売としておりますが、今後の状況に応じて追加販売することがございます。何卒ご了承ください。



伶楽舎

1985年に発足した雅楽演奏団体。創立者・芝祐靖。現音楽監督・宮田まゆみ。現行の雅楽古典曲だけでなく、廃絶曲や正倉院復元楽器、現代作品の演奏等、幅広い活動を展開。国内各地の他、米国、欧州諸都市で公演。2002年中島健蔵音楽賞特別賞受賞。2017年佐治敬三賞受賞。2020年第50回 ENEOS音楽賞邦楽部門受賞。他に解説を入れた親しみやすいコンサート、学校での公演なども多く行っている。

伊崎善之、石川高、岩亀裕子、北村茉莉子、國本淑恵、小林勝幸、五月女愛、笹本武志、野護元、鈴木絵理、田口和美、武智和子、田島和枝、田中康真、谷内信一、田淵勝彦、角田眞美、東野珠実、中村華子、中村仁美、野田美香、平井裕子、福西賢雄、三浦礼美、宮田まゆみ、宮丸直子、村岡健一郎、八百谷啓、八木千暁、荒川明英、中村かほる

企画協力

寺内直子(神戸大学教授)

主催 一般社団法人 伶楽舎

〒160-0012 新宿区南元町19-2千日谷会堂内

tel&fax: 03-5269-2011

http://www.reigakusha.com

https://www.facebook.com/reigakusha

